

## 循環型社会の形成

資源化率向上の取り組みを通じて、ゼロ・エミッションを継続し、循環型社会の構築に貢献します。

### 2010年度の目標

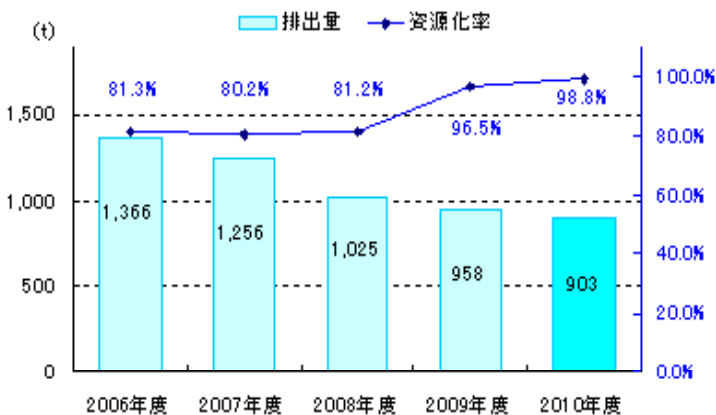
国内の3生産拠点すべてが資源化率95%を達成する。

### 2010年度の実績

前年度までは、未達成であった秋田工場も資源化率96.1%となり、3生産拠点とも目標達成が出来ました。

## 2010年度の実績

### ● 廃棄物排出量と資源化の推移



### 【減量化】

国内3生産拠点における2010年度の廃棄物排出量は、福島工場については、生産地移管の影響などによる生産量の増加のため微増しましたが、全体としては、前年度比で5.7%減少させることができました。

本社：前年度比 13.8%減  
 秋田工場：前年度比 8.6%減  
 福島工場：前年度比 1.3%増

### 【資源化率】

2010年度におきましては、秋田工場がゼロ・エミッションを達成しました。本社及び福島工場につきましても、2009年度に引き続き達成しておりますので、国内生産拠点全てでゼロ・エミッションを達成したことになります。資源化率は、本社：100.0%（前年度：99.8%）、秋田工場：96.1%（前年度：80.3%）、福島工場：99.2%（前年度：99.1%）となりました。

### 【今後の課題】

当社グループのゼロ・エミッションは達成致しましたが、今後は廃棄物の資源化率の維持向上はもちろんのこと、さらに減量化を一層進めるとともに、循環型社会の形成に向けて総合的に継続的改善を推進します。

### コラム

#### 秋田工場ゼロ・エミッション達成について

秋田工場においては、従来、地域的な事情から、廃棄処分業者は存在するもののリサイクル可能な処分業者が県内にほとんど無く、国内3工場の中で、秋田工場だけがゼロ・エミッションの未達成という期間が長く続いており、処分業者の開拓が一番の課題となっておりました。

幸いにもリサイクル可能な取引先が見つかり、2009年8月に契約を交わし、2009年度下期には、これまで廃棄処分していた汚泥や廃油・廃液のリサイクル化を開始。2010年度には、新たに、塗料附着パターン紙、廃棄ウエス・軍手、プラスチック加工屑、使用済バフ、塗料ブースフィルタなどのリサイクル化を実施して参りました。

ゼロ・エミッションの達成が可能となった背景には、勿論、処分業者の開拓もありますが、各種廃棄品の分別徹底や、廃棄切削油の分別徹底、廃棄時の保管場所の整理整頓など従業員全員の協力が、ゼロ・エミッション達成の原動力になったものと考えております。

今後は、さらなるリサイクル率向上を目指し、今現在廃棄処分となっているダイカスト灰や、一般ゴミのリサイクル化を実現すべく新規処分業者を開拓し、少しでも本社や福島工場に追いつけるよう尚一層のリサイクル化推進を実施して参ります。

(秋田工場EMS部門管理責任者 金子忠保)

